

## 卒業式 式辞

令和8年3月10日

今朝はあいにくの雨となりましたが、季節は確かに春へと向い、希望の息吹が感じられる頃となりました。

この良き日に、PTA会長 様、後援会会長 様をはじめ、多くの御来賓の御臨席と保護者の皆様とともに、埼玉県立狭山清陵高等学校第42回卒業証書授与式が盛大に挙行できますことを、教職員一同、心からお感謝とお祝いを申し上げます。

さて、ただいま、卒業生169名に卒業証書を授与いたしました。その時の卒業生の目の輝きに、3年間の教育の成果を見る思いがいたしました。

卒業生の皆さんは、「たかく、ゆたかに、たくましく」の校訓のもと、ここで学び、鍛え、汗と涙を流し、友情をはぐくみ、青春の日々を過ごしてきました。苦しかったこと、辛かったこともあったかもしれませんが、皆さんはそれを乗り越え、今ここにいます。今日は皆さんのそれぞれの頑張りに対して、心よりお祝いし、敬意を表したいと思います。本当によく頑張りました。ご卒業おめでとうございます。

ここで、新たに旅立つ卒業生の皆さんに三つの饞の言葉を贈ります。

一つ目は、「学び続ける心」を持ってほしいということです。成年年齢が18歳に引き下げられ、卒業生のほとんどが成年になり、さまざまな場面で「正しい判断」を迫られることが増えていきます。しかし、その判断が常に簡単で明確とは限りません。だからこそ、判断の土台となる知識や視野を広げ続けることが大切です。学び続ける姿勢は、皆さんの人生を支える最も確かな力です。さらに、今の社会は技術も価値観も驚くほどの速さで変化しています。そのような時代を生き抜くために必要なのは、変化を恐れず、柔軟に対応し続ける力です。

進化論で有名なダーウィンは「生き残る種は、最も強い者ではない。最も知的な者でもない。それは、変化に最も適応した者が生き残るのである。」と述べています。この言葉は、まさに現代を生きる私たちへのメッセージです。変化に適応するためには、常に学び続け、自分をアップデートし続ける姿勢が欠かせません。どうか、これからも自分の可能性を信じ、学び続けることを大切にしてください。

二つ目は、学び続ける心を支えるものは、丈夫な体と強い精神力にあるということです。令和2年にWHOが公表した身体活動のガイドラインでは、十分な身体活動は、様々な病気のリスクを減らし、幸福感を高める効果があることを示しています。高校に在学中は体育の授業や部活動がありますが、卒業を機会に身体活動は減少する傾向にあります。

皆さんには、卒業後においても身体活動やスポーツを生活の中に意識して取り入れることを強く勧めます。たとえば、通学・通勤で早歩きをする、エレベーターの代わりに階段を使う、こうした小さな積み重ねでも、健康への効果は確かなものになると言われています。人間の豊かな生活の基礎は健康にあります。どうか、卒業生の皆さんには、運動やスポーツの生活化を通して心身の健康を保ちながら、夢や希望の実現に力強く向かっていただきたいと思います。

三つめは、感謝の心についてです。先日の冬季オリンピックフィギュアスケートで、三浦璃来選手と木原龍一選手、この“りくりゅう”ペアが、日本ペア史上初となる金メダルを獲得しました。この金メダルを支えたのは、技術だけではありません。2人はインタビューの中で、お互いへ感謝や応援してくださった方々への感謝の気持ちを語っています。この金メダルは、支え合う心、周囲への感謝、そして感謝の言葉が生むエネルギーが結びついた結果でもあります。

卒業生の皆さんが今あるのは、両親、家族、先生や仲間をはじめ多くの人たちの支えがあつてのことです。これから皆さんは、新たな道を歩みます。うまくいく日もあれば、壁にぶつかる日もあるでしょう。そんな時こそ、今日まで支えてくれた両親、家族、先生や仲間、お世話になった方々を思い出してください。りくりゅうペアが教えてくれたように感謝の心は、困難を乗り越える力となり、きっと皆さん自身をさらに成長させる力となります。そして私は、感謝の気持ちは人だけに向けるものではないと感じています。私たちが毎日生きてこられたのは、食べ物としての植物や動物、きれいな空気や水を与えてくれる自然の存在があったからであります。当たり前に見えるこれらの恵みも、実は多くの“いのち”のつながりによって支えられています。そのことに気づき、感謝する心を持つことは、これからの私たちの生き方にとって大切なことだと思います。今日の卒業を新たな出発点として、お世話になった人への感謝とともに、自然の恵みにも感謝しながら、よりよい未来をつくる一員として歩いてほしいと思います。

次に、在校生の皆さんにお願いです。卒業生が残してくれた数々の素晴らしい実績や伝統と校風を受け継ぐとともに、本校の校訓「たかく ゆたかに たくましく」の実践をとおして、皆さんが持っている能力をさらに伸ばしていただきたいと思います。在校生の皆さんの更なる努力と挑戦を期待しています。

最後に、保護者の皆様にお礼とお願いを申し上げます。この三年間、時には厳しく時には優しくお子様を励まし支えていただくとともに本校の教

育活動に絶大なる御理解と御協力を賜り心から感謝を申し上げます。

親という漢字を分析しますと、「立つ木を見る」となります。卒業したとはいえ、社会的にはまだまだ経験が浅く、十分とは言えません。今後は、人生の先輩として、お子様を見守ってください。そして、引き続き本校の充実・発展にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本日、御列席の御来賓の皆様の御健勝と卒業生の皆さんの、今後の御活躍と御多幸を祈念して、私からのなむけの言葉といたします。

令和8年3月10日

埼玉県立狭山清陵高等学校長 小久保 守